

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 4月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	1270801580		
法人名	株式会社 リエイ		
事業所名	コミュニテイケア24市川おにだか館グループホーム		
所在地	千葉県市川市鬼高1-6-2 (電話)047-393-6588		
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都文京区本駒込3-15-10		
訪問調査日	平成19年3月9日	評価確定日	4月20日

【情報提供票より】 (19年 2月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 8月 21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤	5人, 非常勤 16人, 常勤換算 8.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋構造耐火造り		
	4階建て	2階 ~	4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	89,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	450 円	昼食	600 円
	夕食	700 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1,750 円	

(4) 利用者の概要 (2月 21日現在)

利用者人数	15名	男性	0名	女性	15名	
要介護1	3名	要介護2	4名			
要介護3	5名	要介護4	1名			
要介護5	2名	要支援2	0名			
年齢	平均	87歳	最低	79歳	最高	101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 武田クリニック ほか
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

企業の元独身寮であった建物を、「グループホーム・高齢者住宅・デイサービス」の多機能施設として改修しています。良好で静かな住環境の中に立地していますが、建物自体の老朽化が進んでいるため、利用者の満足度を高める空間造りとして「改修工事」が予定されています。これは、当事業所の更なるイメージアップに資するところが大きいと考えられます。介護サービスについては、「家族アンケート」結果に反映されていますが、利用者に対する職員各人の明るく、自然体での支援が家族から認められていることが強く感じられます。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 玄関廻り等の配慮、利用者の活動意欲を發揮する支援、地域の人たちとの交流促進等が主な改善課題です。そのうち、「玄関廻り」については、「自動車の駐車禁止」「花壇の花々の種類の充実」等で改善。その他の改善事項は、各項目でコメントを行いました。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価については、管理者のワークアップのもと、内部職員が一体となって自己評価の意義を理解して取り組んでいます。前回の外部評価をふまえ、利用者各人の個性、経験を活用して、裁縫・書道・花・音楽・手芸等様々な活動意欲を触発するケアへの改善を行っています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 年2回の運営推進会議は、市担当職員、自治会役員、家族代表等のメンバーで開催しています。主として当事業所で利用者へのサービス向上のためにどんなことを行っているか、を中心に意見交換をしています。さらには、地域ボランティアの活動施策等テーマを設けて具体策を検討しています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 主に家族との面会時に、家族の意見、苦情等を聞いて利用者が満足できるように対応していますが、外部者へ表せる機会はまだ設けていません。主に家族との面会時に、家族の意見、苦情等を聞いて利用者が満足できるように対応していますが、外部者へ表せる機会はまだ設けていません。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会の盆踊りへの利用者の参加は、恒例となっており、当事業所で行っている行事(敬老会、忘年会等)へは自治会メンバーを招いており、ボランティア等も参加しています。積極的な「相互交流」を図り、地域との付き合いを良好に保持しています。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針に「地域と家庭との結びつきを重視した運営」「市町村、事業者等、施設その他福祉サービス提供者との連携」を掲げています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	経営理念は2ユニットそれぞれの廊下に掲示されており、月一回の「ユニット別フロア会議」の場でその具体化についての話し合いがなされています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の盆踊りへの利用者の参加は、恒例となっており、当事業所で行っている行事（敬老会、忘年会等）へは自治会メンバーを招いており、ボランティア等も参加しています。積極的な「相互交流」を図り、地域との付き合いを良好に保持しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価については、管理者のリーダーシップのもと、内部職員が一体となって自己評価の意義を理解して取り組んでいます。前回の外部評価をふまえ、利用者各人の個性、経験を活用して、裁縫・書道・花・音楽・手芸等様々な活動意欲を触発するケアへの改善を行っています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年二回、運営推進会議(市担当職員、自治会役員、家族代表を含む。)を実施しており、利用者のサービス向上を主眼とした討議、実施を行っています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	前回、外部評価の指摘もあり、グループホームとして、市介護福祉課への報告、連絡、相談等をその都度実施しています。さらに、PR活動として、市役所に事業所のリーフレット等を置くなど、連携に努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回、各利用者の家族に手紙で状況を伝え、写真を送付しています。さらに家族との面会時には身体状況等を細かく説明し、家族とのコミュニケーションは良好に保たれています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に家族との面会時に、家族の意見、苦情等を聞いて利用者が満足できるように対応していますが、外部者へ表せる機会はまだ設けていません。	○	「利用者家族アンケート」では、必ずしもすべての家族が満足している状態とは言いにくい回答となっておりますが、2F、4F各フロア担当者は、ほぼそれらの要望等を掌握しており、今後の運営への反映が期待されます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は定着しています。「異動」には、2階より4階へ、といったケースもあり、利用者への影響が少なくなるような配慮がなされています	○	「家族アンケート」では、この項目もすべての家族が満足している状態とは言いにくい回答となっております。しかし、これについても管理者は、状況を掌握しており、今後の運営への反映が期待されます。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、既任者実務研修等を社内外で行っています。当事業所での勉強会を定期的に行っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者が行う研究会等に参加して、情報交換を行っています。職員は他のグループホームの好例を見学してネットワーク作りやサービスの質の向上に役立てています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に体験入所を実施し、居心地の良さや住んでみたいという気持ちに抵抗感がないか本人と家族、事業所が検討し、納得した上で契約しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入所者の能力が発揮された作品が至るところで見られます。ぬくもりのある居室の表札や、押し花加工の壁掛けは、長年の趣味の磨きを感じさせる出来栄です。ラベンチマツトはお揃いの布地で皆で作ったものを使用しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室は自宅からの延長のように、家具や仏壇、観葉植物などが長年大切にしてきた物に囲まれ、自分だけの世界が居室でも継続していると感じとれます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	見守りの観察と心身機能の変化は記録されています。介護職員と計画作成担当者は状況を共有把握し、双方から利用者の生活上の可能性を期待した計画書が作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	体調の悪化、動作の進行等は、担当職員、計画作成者が改善の工夫を家族に提案しています。必要により、利用者や家族と検討し、計画書の見直しが行われています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設デイサービスの大きいホールで地域ボランティアの学生やクラブ活動者との交流を楽しんでいます。ホール等に貼られた、当事業所月刊紙の「コミュライフ・タイム」や写真でその楽しさを伝えています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	駅が近く、利便性が高いため、至近距離の新たな医師の紹介等医療機関の選択は多様です。それらの中から本人に適した医療機関に依頼が行われ、良い関係をつくっています。また、入所前の主治医との継続の是非なども多様な選択肢の中で可能となっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今の時点では、死亡退所は0ですが、早めの対応の必要性は考えています。ほぼ全員が終末期までを希望しています。至近距離の主治医には、普段から積極的に親交を深めています。家族からも信頼が厚い主治医からの協力の承認を得ています。	○	看護師で、重度化・終末期の経験を積んでいる職員が大半を占めているので、必要な場合は密度の高いケアの実施を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを尊重する意識が職員に徹底しています。また記録等の個人情報についても取り扱いには十分に注意を払っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室の中のベッドや家具の据え方が個々に違うことから、本人の意向を重視した対応が推測できました。また、各自が、大切にしていた仏壇や、大きな犬のぬいぐるみ等の持ち込みが行われています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時と異なり現在は、全員、炊事は出来ません。メニューは業者が決め、食材を納入しています。知り合いの農家から野菜の差入れがあるとき等は、利用者の状況等によりメニューを変えることもしばしばあります。	○	食欲の進み具合に合わせた臨機応変な食量の調節も行われることを期待します。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、介護度の低い人は毎日(4F)、車椅子移動の必要な人は最低で2日に1回(2F)あります。浴槽に全身タップリと浸かる全身入浴のため、異性の介助も必要とされますが配慮して行っています。入浴を嫌う人については、4日に1回説得して行っています。	○	浴室に窓がないため、圧迫感があり、何らかの改善を検討されることを期待します。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月1回の外食支援の実施は、該当月の人の誕生祝いを兼ねて行っています。好物が注文できるため、皆が楽しみにしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩途中で近所の住民と会話等交流が生まれています。特に、馴染みの店主からの買い物が楽しみのため、外出は多めにしています。その際使用するお金は各自払いです。お金のやりとりは楽しく、喜ばれるそうです。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼の玄関の鍵は主に併設1階のデイサービスセンターが管理しています。全居室鍵をかけない取り組みをしています。2Fの人(重度)は特に職員の見守りが必要のためドアは開放しています。3Fの人は、就眠時は内鍵を掛ける人もいるため、合鍵で開け、確認をすることもあるとのことでした。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1回、避難訓練を行っています。消防署職員、地元の方々と一緒になって、災害時での対応をその都度打ちあわせ、訓練しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物の支援は不摂取になりがちな水分を摂りやすくするため、個々の好みの飲み物を揃え、いつでも飲めるようにしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敬老会、忘年会等の写真や花・動物の写真が共用空間を小ざれいに飾っており、生活感、季節感を演出しております。2階廊下部分が老朽化のため、幾分暗い感じを与えていますが、明るくしようという工夫は感じられます。	○	近々、2階、4階共に「改修工事」が予定されております。とりわけ、共用部分の清潔感、明るさ等のグレード・アップが期待されます。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自分の馴染みの家具、ベッド等を自由に持参してきており、各部屋が利用者の好みのトーン(色合い)でまとめられています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。